

調査の結果概要

「上越市市民の声アンケート」(平成17年度) 結果概要 《1》

1. 調査概要

1. 調査目的

市町村合併に伴う「上越市第5次総合計画」の改定に資する基礎資料を得るとともに、市民の意識や意向を様々な角度から把握し、今後のまちづくりに反映させることを目的とする。

2. 調査方法

- (1)調査地域：上越市内全域
- (2)調査対象：上越市内在住の満20歳以上の5,000人
- (3)抽出方法：住民基本台帳より無作為抽出

(4)調査期間

- ・ 発送・・・平成17年8月19日
- ・ 回収・・・平成17年8月20日～8月29日

3. 回収結果

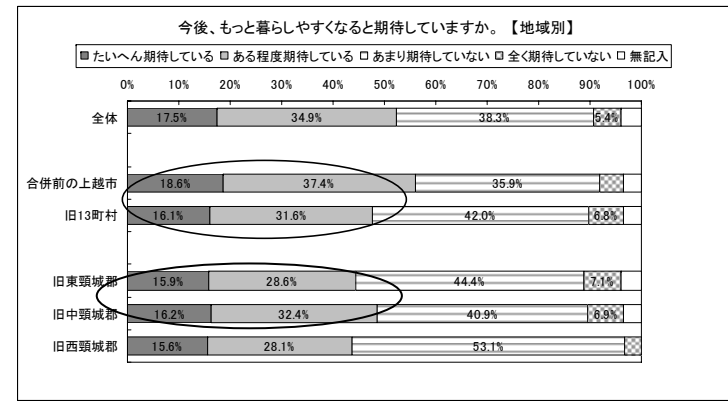
- (1)発送数：5,000人
- (2)有効回収数：1,845人
- (3)有効回収率：36.9%

2. 現在の生活や暮らし

- 約8割の人が「地域に愛着を感じる」と回答。
- 約7割の人が「暮らしやすい」と回答。暮らしやすさを感じるところ、不便や不満を感じるところは、以下のとおり

	暮らしやすさを感じる場所	不便や不満を感じる場所
1位	自然(緑)が豊か(65.4%)	老後の生活が不安である(47.5%)
2位	災害が少ない(64.2%)	魅力のある働く場が少ない(41.2%)
3位	交通の便がよい(47.6%)	バスや鉄道など交通の便がよい(40.2%)

○今後のまちづくりへの期待感には地域差が現れた。旧13町村に比べ、合併前の上越市のほうが今後暮らしやすくなるとの期待が大きい。また、旧東頸城郡と旧中頸城郡との間にも意識差がみられる。



3. 現在の生活実態・生活実感

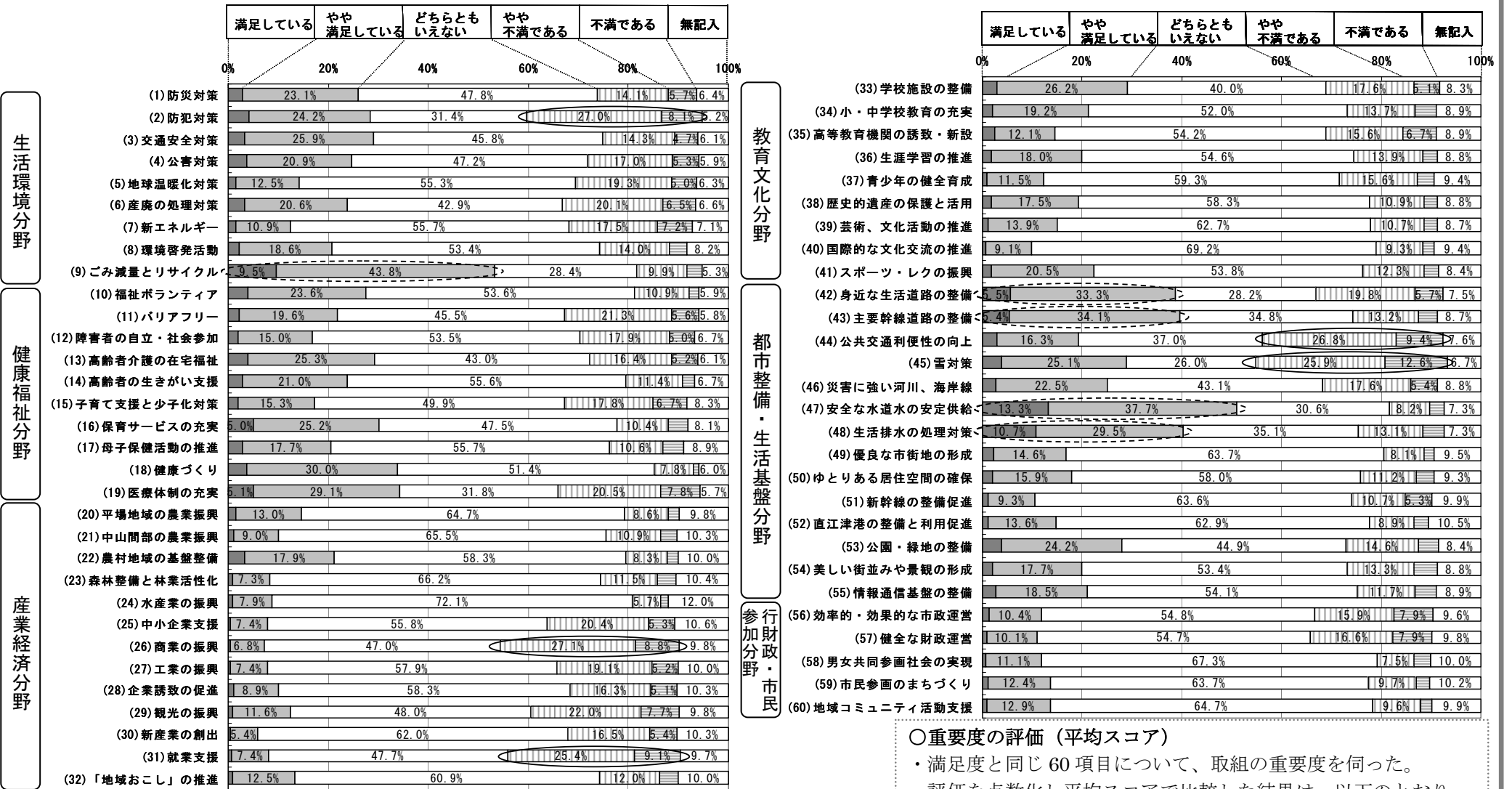
- 様々な分野について現在の生活実態・生活実感の「現状値」は、以下のとおりである。
- 今後、上越市のまちづくりの成果を評価する指標としての活用を図る。

ごみの減量やリサイクルを意識して暮らしている人の割合	90.2%
自宅や勤務先の周辺にある災害時の避難場所を知っている人の割合	70.3%
少し価格が高くても、安全な地場農産物を買う人の割合	66.9%
ここ1年以内に、上越市内の道路で歩行中または運転中に、事故などの危険を感じたことがある人の割合	59.5%
上越市のまちなかは、緑や水辺が豊かだと思ふ人の割合	58.2%
子ども達は充実した学校生活を送っていると思ふ人の割合	56.2%
上越市は、子育てしやすいまちだと思ふ人の割合	53.7%
上越市からの各種の情報提供に満足している人の割合	42.8%
自分の払った税金が有効に活用されていると思ふ人の割合	19.1%

4. 各分野における取組

○各分野の取組についての満足度の評価(単純集計)

・「生活環境」「健康福祉」「産業経済」「教育文化」「都市整備・生活基盤」「行財政・市民参加」の6分野、60項目について伺った。



・満足度の評価(単純集計)の上位5項目は、以下のとおり。点数化した平均スコアは本編参照

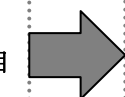
○満足度の高い(満足とやや満足の合計)取組

- 1位 [9]「ごみ減量とリサイクル」(53.3%)
- 2位 [47]「安全な水道水の安定供給」(51.0%)
- 3位 [48]「生活排水の処理対策」(40.2%)
- 4位 [43]「主要幹線道路の整備」(39.5%)
- 5位 [42]「身近な生活道路の整備」(38.8%)

○満足度の低い(不満とやや不満の合計)取組

- 1位 [45]「雪対策」(38.5%)
- 2位 [44]「公共交通利便性の向上」(36.2%)
- 3位 [26]「商業の振興」(35.9%)
- 4位 [2]「防犯対策」(35.1%)
- 5位 [31]「就業支援」(34.5%)

○「満足度」と「重要度」の平均スコアを重ね合わせた評価
◆重要度が高いにもかかわらず、満足度が低い項目⇒「改善項目」として抽出



- | | | | |
|------------|-----------------|----------------|------------------|
| (2)防犯対策 | (11)バリアフリー | (25)中小企業支援 | (46)災害に強い河川、海岸線 |
| (5)地球温暖化対策 | (12)障害者の自立・社会参加 | (31)就業支援 | (56)効率的・効果的な市政運営 |
| (6)産廃の処理対策 | (15)子育て支援と少子化対策 | (44)公共交通利便性の向上 | (57)健全な財政運営 |
| (7)新エネルギー | | (45)雪対策 | |

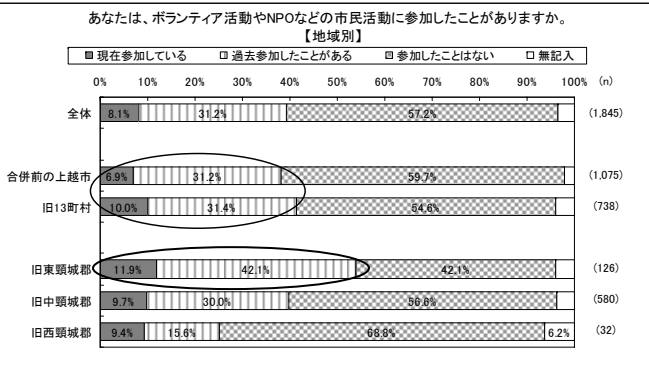
○重要度の評価(平均スコア)

- ・満足度と同じ60項目について、取組の重要度を伺った。
- ・評価を点数化し平均スコアで比較した結果は、以下のとおり

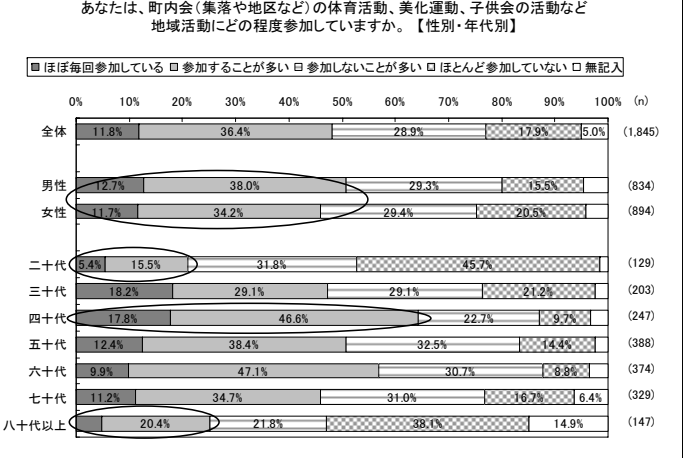
	重要度の高い取組	重要度の低い取組
1位	防災対策	国際的な文化交流の推進
2位	医療体制の充実	水産業の振興／芸術、文化活動の推進
3位	雪対策／安全な水道水の安定供給	優良な市街地形成
4位	防犯対策／ごみ減量とリサイクル	農村地域の基盤整備／新幹線の整備促進

「上越市市民の声アンケート」(平成17年度) 結果概要 《2》

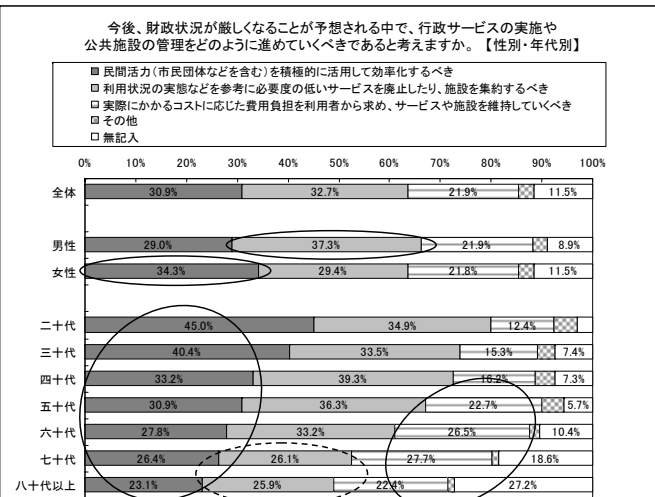
5. 市民活動や地域活動に対する参加の意向



○ボランティア活動や市民活動に参加している人は、合併前上越市よりも旧13町村のほうが多く、旧東頸城郡に多い。
○町内会などの地域活動の参加は三十代から高まり、四十代、六十代が多い。



6. 市政運営のあり方について



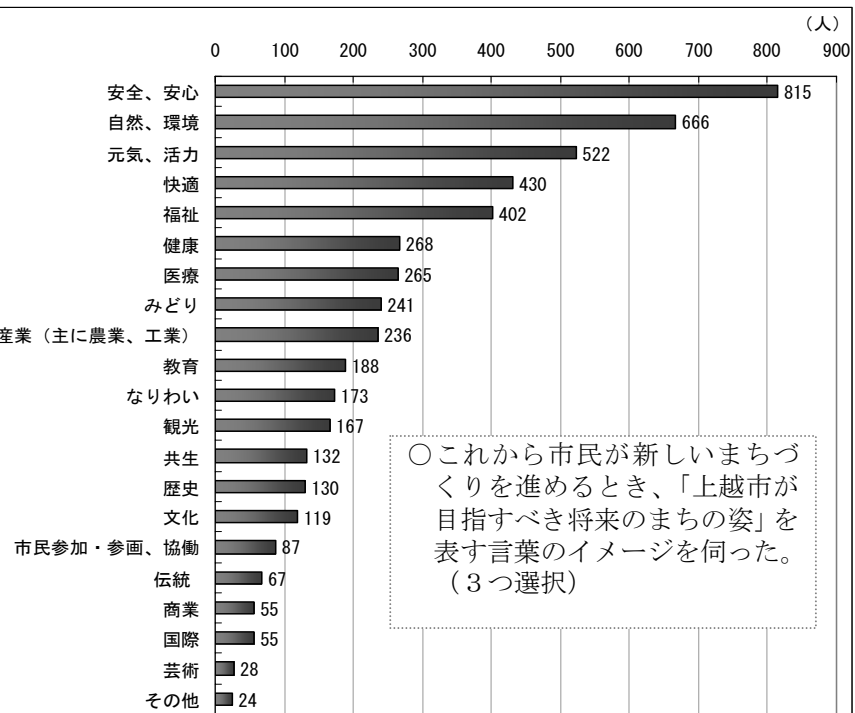
○若い年代ほど、民間活力などによるサービスの質の向上や効率的な運営を望む声が多い。
○高齢世代ほど、サービスの廃止や施設の集約への回答が少ない。公共施設を実際に利用している中で現在と同等の水準でサービスを維持することを望む声が多い。

7. 今後の土地利用のあり方

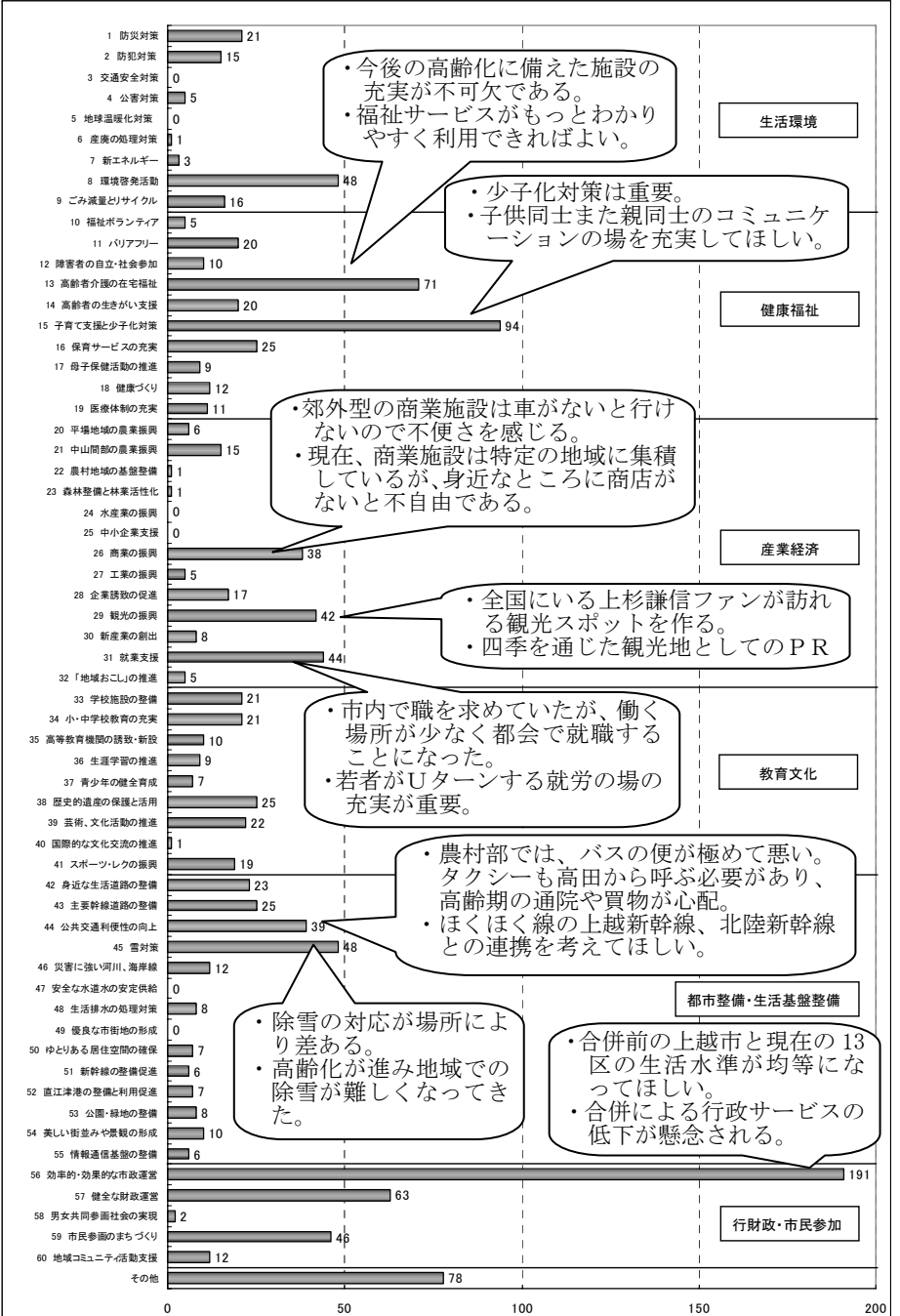
○新市建設計画において定められた「市街地」「田園地域」「中山間地域」の土地利用の考え方についての意見の結果は、以下とおり
○自然環境の保全を重視しつつ、利便性向上や人口維持のための計画的な開発の誘導を行うことが求められている。

- ◆市街地の土地利用◆
「商業施設を誘致し、利便性を高めるべき」との意見が多く(26.3%)、次いで「住宅団地等の開発を進め人口維持を図るべき」(19.4%)との意見が多い。
- ◆田園地域の土地利用◆
「開発は抑制し、自然環境を保全すべきである」との意見が多く(28.5%)、次いで「工場を誘致し、就労の場を確保すべき」(23.4%)との意見が多い。
- ◆中山間地域の土地利用◆
「開発は抑制し、自然環境を保全すべきである」との意見が大多数(57.0%)を占めた。

8. 将来のあるべき姿について



9. 自由意見のとりまとめ



○自由意見は、781人から1,294項目の意見が寄せられた。
○意見を、「4.各分野の取組」において設定した60項目で分類し、集計した結果は、左記のとおりである。
○意見数が多かった5項目は以下の通りである。
1位: 効率的・効果的な市政運営
2位: 子育て支援と少子化対策
3位: 高齢者介護の在宅福祉
4位: 健全な財政運営
5位: 雪対策
環境啓発活動
○意見数が多かった項目の特徴的な意見は、左記の吹き出しのとおりである。

10. 調査結果から見える上越市の主な政策課題

- 【1】「生活実感・暮らしやすさ」からみた政策課題
 - 多様な地域特性・課題への対応
 - 老後の生活不安の解消
 - 魅力ある就業環境の創出
 - 安全に安心して暮らせるまちづくり
- 【2】施策分野別にみた政策課題
 - (1) 生活環境分野
 - 家庭・学校・地域・行政の連携による「防犯対策」の強化
 - 先進的取組の実践をさらに発展させた「環境対策」の充実
 - 地域特性に応じた「防災対策」の一層の充実
 - (2) 健康福祉分野
 - 家庭・地域社会・学校・行政等の協働による「子育て支援と少子化対策」の充実
 - 「バリアフリーと高齢者・障害者対策」とユニバーサルデザインの考え方を取り入れたすべての人にやさしいまちづくりの推進
 - 医師会などとの連携・協力による「医療体制の充実」
 - (3) 産業経済分野
 - 社会環境の変化に対応した「就業支援と中小企業支援」
 - 既存商店街の活性化を中心とした「商業の振興」
 - 地域資源を活かした「観光の振興」
 - (4) 教育文化分野
 - 地域との連携による「教育環境の充実」
 - 社会背景を考慮した「高等教育機関との連携」
 - (5) 都市整備・生活基盤整備分野
 - 地域特性や高齢化の進展など社会背景を考慮した「雪対策」の充実
 - 持続的な地域の発展を支える「総合的な交通体系の整備」
 - 安全な市民生活のための「災害に強い河川、海岸線の整備」
 - 日常生活に欠かせない生活基盤としての「生活排水対策、安全な水道水の供給」
 - (6) 行財政・市民参加分野
 - 市民ニーズに応える「効率的・効果的な行財政運営」
 - 市民との協働のまちづくりへつなげる「市民参加の一層の推進」

※今後、上越市では、今回実施した「市民の声アンケート」を定期的実施する予定である。
※各分野の取組の満足度や重要度を評価するとともに、現在の生活実感や暮らしやすさなど、総合的な市民満足度を把握し、まちづくりの継続的な評価と改善に活かしていく。